

朱鷺メッセの展望台

超高層ビルの高さを競い国内はもとより世界各地で建設ラッシュが続いている。古くはニューヨーク・マンハッタン地区の摩天楼（点を摩するほどの高楼）が有名であった。しかし近年アジア諸国の著しい経済発展に伴い、アメリカを凌ぐ中国・上海の超高層ビル群を見た時、私はそのスケールの大きさに思わず息を飲んでしまった。台湾の台北 101（101階、508m）。マレーシアのパトロナスツインタワー（452m）。そして世界一の超高層ビルはアラブ首長国連邦のドバイにあるブルジュ・ハリーフア（162階、828m）。

一方、日本国内に目を向けると東京・霞が関ビル（36階、147m）、神戸商工貿易センタービル（107m）などの時代を経て、西新宿の東京都庁はじめとする超高層ビル群などがある。現在の日本一のビルは大阪・あべのハスカル（60階、300m）。ビル以外では東京スカイツリー（634m）もある。

新潟市内を流れる信濃川の河口の一角に「朱鷺メッセ」が高く聳えていた。ここは新潟コンベンションセンター（最大 10,000人収容）と万代島ビル（31階、143m）の2棟によって構成されている。31階の展望室からは周辺の新潟市内の全容のほか遠くは日本海まで見渡せた。美しい水の都は時の過ぎるのを忘れてしまうほどつい見とれてしまった。

撮影 2013 年春

